Sapporo Concert Hall

Kitara ファースト・コンサート

指揮	佐藤 俊太郎（10/30・31、11/1） 垣内 悠希（12/4・5）
管弦楽	札幌交響楽団
オルガン	シモン・ボレノ
司会	鈴木 舞（10/30、12/4・5） 古屋 瞳（10/31、11/1）

2018年

10/30（火）	午前の部 10:00 開演 午後の部 13:45 開演
10/31（水）	午前の部 10:00 開演 午後の部 13:45 開演
11/1（木）	午前の部 10:00 開演 午後の部 13:45 開演
12/4（火）	午後の部 13:45 開演
12/5（水）	午前の部 10:00 開演 午後の部 13:45 開演

札幌コンサートホール Kitara 大ホール

主催：札幌コンサートホール（札幌市芸術文化財団）

協賛：創造都市さっぽろ WAON

文化庁文化芸術振興費補助金
（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）
独立行政法人日本芸術文化振興会

プログラム

※休憩はありません

J.S.バッハ(1685~1750)	フーガ ト短調 BWV578「小フーガ」(オルガン独奏)	(約5分)
ワーグナー(1813~83)	歌劇「ローエングリン」より 第3幕への前奏曲	(約4分)
モーツァルト(1756~91)	セレナード 第13番 ト長調 K.525 「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」より 第1楽章	(約4分)
グリーグ(1843~1907)	ペール・ギュント 第1組曲 作品46より 第1曲 朝	(約3分)
ビゼー(1838~75)	アルルの女 第2組曲 作品23より ファランドール	(約6分)
村井 邦彦(1945~)／作詞 山上 路夫	つばさをください	(約5分)
エルガー(1857~1934)	行進曲「威風堂々」第1番 ニ長調(管弦楽、オルガン)	(約7分)

コンサートを聴くときのマナー

Kitaraでのコンサートを楽しむために、「キ」「タ」「ラ」の文字にちなんだ
3つのポイントを覚えましょう

♪「キ」 客席のみなさんも出演者

Kitaraはとてもよく響くホールですから、小さな音でもホール全体に聞こえます。演奏中はおしゃべりをせず、また、せきやくしゃみが出そうなときはハンカチを当てるなど、客席のみなさん全員が気持ちよく演奏を聴けるように協力してくださいね。

♪「タ」 タイミングを知って、楽しい演奏会

演奏会にはいろいろなタイミングがあります。たとえば、拍手のタイミングや、演奏会に遅れてしまった時に入場するタイミングです。はじめに、演奏者、指揮者が舞台に出てきたら拍手をします。また、1曲が終わってから拍手をします(1楽章ごとには拍手をしません)。もし演奏会に遅れてしまったら、案内係の誘導に従って客席に入ります。

♪「ラ」 ラストはステージにたくさんの拍手

演奏中は静かにしなければなりませんが、演奏が終わったら思いきり拍手をして、みなさんの気持ちを演奏者に伝えましょう。でも、曲が静かに終わったときは、余韻がなくなるまで耳をすませてから、大きな拍手をします。

拍手も音楽のように、言葉がなくても気持ちを伝えることができます。その曲の雰囲気に合ったタイミングを考えながら、みなさんも客席から演奏会を盛りあげてくださいね。

「キ」「タ」「ラ」のマナーを守ってコンサートを楽しんでくださいね。

プログラムノート（曲目解説）

ヨハン・セバスティアン・バッハ

フーガ ト短調 BWV578「小フーガ」(オルガン独奏)

バッハは数多くのオルガン曲を残しましたが、その中でも最も有名で親しまれている作品のひとつが、この「小フーガ」です。短い曲ですが、なによりも主題が美しく、曲の構成もみごとです。

フーガとは「追いかけっこ」という意味で、主題がいろいろな形でくり返し現れ、重なり合いながら進行する曲の形式です。

リヒャルト・ワーグナー

歌劇「ローエングリン」より 第3幕への前奏曲

ワーグナーはドイツ出身の作曲家です。伝統的な「歌劇」を基に、「楽劇」というあらたなジャンルを創造しました。神話や昔話を題材に自ら台本を書き、登場人物や場面ごとに決まったテーマを使って劇の進行をわかりやすくしたり、オーケストラを大型化しダイナミックな表現をするなど、さまざまなアイディアで文学と音楽を統合しました。

歌劇「ローエングリン」より 第3幕への前奏曲は、スケールの大きい華やかな作品で、単独でもよく演奏される名曲です。

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

セレナード 第13番 ト長調 K.525 「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」より 第1楽章

モーツァルトはオーストリアのウィーンを中心に活躍した天才作曲家で、35歳で亡くなるまでにおよそ600曲もの作品を書きました。親しみやすい作品が多く、よく耳にする旋律が数多く残されています。

アイネ・クライネ・ナハトムジーク（ドイツ語で「小夜曲」）はその代表的な例で、もともとは、夜のパーティのBGMとして作曲されたとも言われていますが、詳しいことは不明です。弦楽器だけで演奏される軽快で楽しい作品です。

エドヴァルド・グリーグ

ペール・ギュント 第1組曲 作品46より 第1曲 朝

グリーグは祖国ノルウェーの自然を愛し、民謡や民族音楽も積極的に作品に取り入れた作曲家です。「ペール・ギュント」はペールという若者が世界各地を放浪してさまざまな事件にあいながら、年老いてついに故郷に帰る、という波瀾万丈の物語です。「朝」は、モロッコ西海岸のさわやかな朝の気分を描いた曲です。

ジョルジュ・ビゼー

アルルの女 第2組曲 作品23より ファランドール

ビゼーはフランス出身の作曲家です。本日演奏する作品は、フランスの小説家ドーデの短編小説「アルルの女」を舞台上演する際に作曲した音楽で、劇付随音楽と呼ばれています。「ファランドール」は、荘厳なフランスの民謡「王の行進曲」と軽快で華やかな馬のダンスの「ファランドール」で構成され、大編成のオーケストラならではのダイナミックな響きがする情熱的な作品です。

作曲／村井 邦彦、作詞／山上 路夫

つばさをください

音楽グループ「赤い鳥」の1971年のヒット曲です。その後、合唱曲として音楽の教科書に取り上げられ、世代を超えて愛されています。オーケストラの伴奏にあわせて、みなさんも一緒に歌いましょう。

1. いまわたしの願いごとが　かなうならば　つばさがほしい
　この背中に　鳥のように　白いつばさ　つけてください
　この大空に　つばさをひろげ　飛んで行きたいよ
　悲しみのない　自由な空へ　つばさはためかせ　行きたい

2. いま富とか　めいよならば　いらないけど　つばさがほしい
　子どもの時　夢見たこと　今も同じ　夢に見ている
　この大空に　つばさをひろげ　飛んで行きたいよ
　悲しみのない　自由な空へ　つばさはためかせ　行きたい

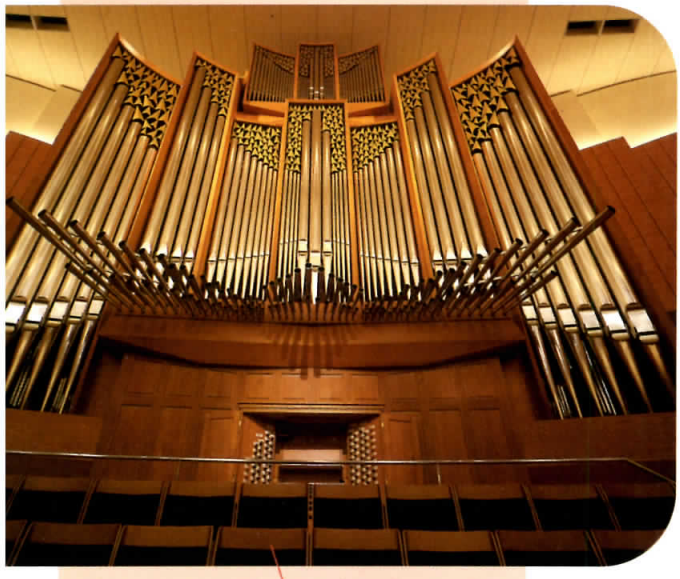
(JASRAC(出)1809846-801)

エドワード・エルガー

行進曲「威風堂々」第1番 ニ長調(管弦楽、オルガン)

エルガーはイギリスの作曲家です。「威風堂々」は全5曲で構成される軍隊行進曲で、第1番は5曲の中で最もよく知られています。特に中間部のメロディは非常に有名で、ドラマやCMなどにもよく使われています。またイギリスでは第2の国歌として国民にも愛されています。

オーケストラで



パイプオルガン

打楽器

鉄琴

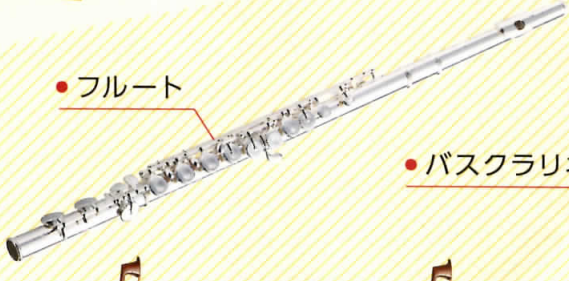
小太鼓

ハープ

ホルン

トランペット

金管楽器



フルート

バスクラリネット

ピッコロ

木管楽器

第1ヴァイオリン

第2ヴァイオリン

弦楽器

使われる主な楽器

タンブリン
ティンパニ
シンバル
トライアングル
大太鼓
トロンボーン
チューバ
クラリネット
オーボエ
ファゴット
ヴィオラ
チェロ
コントラバス

札幌交響楽団からのメッセージ

みなさん、*Kitara* ファースト・コンサートにようこそ！

この *Kitara* ホールは本当にすばらしいコンサートホールです。私たち札幌交響楽団は、このホールでたくさんの演奏会を行っています。こんなすてきなホールが身近にあることを本当に幸せに思っています。見た目も音も素晴らしく、世界中の音楽家があこがれるコンサートホールなのです！

今日聴いていただくオーケストラは、皆さんの家にあるテレビやステレオと違い、電気を使っていません。オーケストラは弦楽器、管楽器、打楽器の集まりですが、マイクやスピーカーがなくてもこんなにダイナミックな音がします。コンサートのスタートはみなさんの目の前にあるパイプオルガンを聴いてみましょう。あんなに大きな楽器を一人で演奏するんですよ！どんな音色がするでしょうか。

オーケストラでは、ドイツ、オーストリア、イギリスそして日本など、いろいろな国の音楽を演奏します。音楽を聴くときは、肩の力を抜いて楽しんでくださいね。指揮者のお話や演奏者のパフォーマンスなど、楽しかったら笑ってもかまいません。感動したな、と思ったら、ぜひ大きな拍手をくださいね！

さあ、まもなくコンサートのスタートです！

佐藤 俊太郎（指揮）

ロンドン大学と王立音楽院(RAM)に学ぶ。1996年イギリス室内管弦楽団(ECO)定期公演でデビュー。ECOのアソシエート・コンダクターに就任。2000年からフィンランドのクオピオ交響楽団首席客演指揮者、02年からの1年間は首席指揮者をつとめた。

これまでに、ロンドン・フィル、フィルハーモニア管をはじめとする国内外の有名オーケストラに客演、世界で活躍する演奏家たちと共演。03年母校王立音楽院とエリザベス女王から王立音楽院会員(ARAM)の称号を与えられた。

16年4月に札幌交響楽団指揮者に就任。

垣内 悠希（指揮）

1978年東京生まれ。東京藝術大学、ウィーン国立音楽大学指揮科に学ぶ。2011年ブザンソン国際指揮者コンクール優勝。フランス国立ボルドー=アキテーヌ管、イル・ド・フランス国立管、ブリュッセル・フィル、ミュンスター響、サンクトペテルブルク響、ウィーン室内管、日本各地のオーケストラに客演している。13年にはミュンスター歌劇場でオペラ・デビューも果たす。16年4月より札幌交響楽団指揮者に就任。ウィーン在住。

シモン・ボレノ
（第20代札幌コンサートホール専属オルガニスト）

1992年、フランス生まれ。ストラスブール音楽院やリヨン国立高等音楽院などでオルガンを学ぶ。これまでに、フランス各地でリサイタルを行うほか、フランス国内のオーケストラや合唱団と共演。現代音楽の普及活動にも熱心に取り組んでいる。2017年、ソシエテ・ジェネラル社から奨学金を授与されるなど、在学中より優秀な成績を修めている。18年9月、第20代札幌コンサートホール専属オルガニストに就任。

札幌交響楽団（管弦楽）

1961年発足。北海道唯一のプロ・オーケストラとして、「札響」の愛称で親しまれる。透明感のあるサウンドとパワフルな表現力は、国内はもとより海外でも評価が高い。これまでヨーロッパ、アメリカ、アジア諸国を訪問し、各国で好評を博した。歴代指揮者には、名誉創立指揮者の荒谷 正雄、ペーター・シュヴァルツ、岩城 宏之、秋山 和慶、尾高 忠明、マックス・ポンマーなどがいる。現在、首席指揮者のマティアス・バーメルト、名誉音楽監督の尾高 忠明、名誉指揮者のラドミル・エリシュカ、友情客演指揮者の広上 淳一、指揮者の佐藤 俊太郎と垣内 悠希を擁する。年間公演数は約120回、さらにアウトリーチ活動にも積極的に取り組んでいる。